

組曲「都筑風土記」3

つきでまつ あき
月出松の秋

加羅古呂庵 一泉

2020.6.6 作曲

自然が豊かで歴史のある横浜市都筑区の風景をテーマとして、「古民家の春」「大塚・歳勝土の夏」「月出松の秋」「山田富士の冬」「都筑の風」の5曲を作曲しました。いわば「都筑風土記」として、組曲のように5曲通して演奏してもいいですし、演奏する機会・場所にに応じて、1～2曲ランダムに演奏してもいいでしょう。

月出松の秋

横浜市都筑区は遊歩道が整備されていますが、その南側の遊歩道は、早渕カナリア公園から加賀原バス停まで 8.7km に及んでいます。その終点近くに「月出松公園」があります。

「月出松」は、もともと「朧松」という松があって、地名（字名）になっていたといいます。ところが、遺跡の調査が行われた際には、「月出松遺跡」となっていました。縦書きから横書きにした際に、「朧」を「月出」にしてしまったのかもしれませんが、それはそれで情緒のある名前になったともいえます。

「朧」の意味は、三日月。あるいは、明け方の薄暗いさまをいうそうです。月を見て暦を測っていたころは、月の満ち欠けを新月から数えたのですが、新月だと月が出ているのかどうかもわからないので、実質的に三日月が月の出を知る始まりだったようです。

そうであるならば、「月出松」の月は三日月であるはずなのですが、「月出松公園」の石の銘板には、満月の中に兎がいる陶板がはめ込まれています。字も変化しましたが、月も三日月から満月のイメージに変化したようです。

「月出松公園」自体は、平凡な丘です。その土の下には「加賀原遺跡」が眠っています（「月出松遺跡」は別のところにあるので、ますますややこしくなります）。縄文時代中期、およそ 4,500 年前の集落の跡だといいます。その丘の一部に小さな森が残されています。松はないのですが、足を踏み入れると、何とも居心地のいい森です。

この曲を、三日月をイメージして聴くか、満月をイメージして聴くかはご自由にどうぞ。

The musical score is arranged for five instruments: two flutes (尺八 I and II), two shamisen (箏 I and II), and a koto (十七絃). The key signature is one flat (B-flat), and the time signature is common time (C). The flute parts play a simple melody with notes corresponding to the numbers 1, 3, 5, 7, 9, 斗 (to), 為 (na), and 巾 (kin). The shamisen and koto parts play a more complex melody, with the koto part including a bass line with notes 2, 3, 5, 7, 9, 1, 3, 5, 7.

運指、奏法については、適宜工夫していただいでけっこうです。